

(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書 第78輯

主要地方道岸和田・牛滝山・貝塚線建設に伴う

しば の がいと
芝ノ垣外遺跡 II

—— 発掘調査報告書 ——

本文編

1 9 9 3

財団法人 大阪府埋蔵文化財協会

(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書 第78輯

主要地方道岸和田・牛滝山・貝塚線建設に伴う

しば の がい と
芝ノ垣外遺跡 II

—— 発掘調査報告書 ——

本文編

1 9 9 3

財団法人 大阪府埋蔵文化財協会



遺跡遠景（Nより，山直谷奥部を望む）



調査地全景（Sより）



第2地区 奈良時代集落（Sより）



第2地区 奈良時代大溝出土遺物



第4地区 平安時代掘立柱建物（Eより）



第4地区 平安時代集落出土遺物



第6地区 古墳時代前期堅穴住居（Eより）



第8地区 鎌倉時代石組井戸（Eより）

序 文

芝ノ垣外遺跡は岸和田市の東南部の岸和田市稲葉町に所在し、山直谷中央部付近の、牛滝川右岸に発達した河岸段丘上に形成された遺跡です。

近畿自動車道松原・海南線建設予定地内の分布調査の際に新たに発見され、昭和61年度に発掘調査を実施し、奈良時代の遺構・遺物が出土しました。

岸和田市東部を南北に縦断する主要地方道岸和田・牛滝山・貝塚線は、関西国際空港の開港に伴う地域整備事業の一環として建設されている道路で、この路線下には16ヶ所の遺跡が連鎖的に所在しており、道路建設に先立って順次発掘調査が進められ、多大な成果が得られております。

今回、芝ノ垣外遺跡の発掘調査を2ヵ年にわたって実施しましたが、奈良時代の遺構・遺物が当初の予想をはるかに上回る量検出され、山直谷開発の歴史を考えるうえで貴重な資料を得る結果となりました。又、当初予想もしなかった古墳時代前期の集落の検出や、平安時代から鎌倉時代の集落の検出など、芝ノ垣外遺跡が複合遺跡として一躍脚光をあびることとなる、大きな成果が得られました。

発掘調査は今後さらに谷奥部へ進められてゆく予定であり、その調査結果によって山直谷の開発過程がより明確になってゆくものと言えましょう。

最後になりましたが、本調査を実施するにあたっては大阪府教育委員会、大阪府土木部岸和田土木事務所、地元自治会をはじめとする関係者各位に多大なご支援とご協力を賜り深く感謝申し上げますと共に、今後とも当協会の事業に対しまして変わらぬご理解とご協力をいただけます様お願い申し上げます。

平成5年6月

財団法人 大阪府埋蔵文化財協会

理事長 伴 恭 二

例 言

1. 本書は、主要地方道岸和田・牛滝山・貝塚線建設予定地内のうちの、岸和田市稲葉町に所在する芝ノ垣外遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、大阪府土木部岸和田土木事務所の委託を受け、大阪府教育委員会の指導のもとに、財団法人大阪府埋蔵文化財協会が実施した。
3. 調査は、(財)大阪府埋蔵文化財協会調査課第1班（班長西口陽一）が実施することとなり、技師岩瀬 透が実務を担当した。
4. 現地調査は、平成3年度・平成4年度の2ヶ年にわたって実施し、平成3年度は平成3年4月20日から同年12月25日まで芝ノ垣外遺跡（その2）発掘調査として4,546㎡を、平成3年11月25日から平成4年3月25日まで芝ノ垣外遺跡（その3）発掘調査として2,394㎡を、平成4年度は平成4年4月28日から平成4年10月15日まで芝ノ垣外遺跡（その4）発掘調査として3,400㎡を対象に実施した。
整理事業は、当協会資料班を中心として調査担当者が行い、平成5年3月31日にすべての業務を完了した。
5. 調査の実施にあたっては以下の方々から御教示を得た他、当協会職員の協力を得た。記して感謝の意を表する（敬称略）。
広瀬和雄（府立弥生文化博物館）、尾上 実、福田英人、枡本 哲（大阪府教育委員会）、中達健一（大東市教育委員会）、西山昌孝（千早赤阪村教育委員会）
6. 花粉・珪藻分析は、川崎地質株式会社に委託した。
7. 本書の執筆、編集は岩瀬が行った。なお、第VI章については川崎地質株式会社に執筆を依頼した。

8. 調査、整理にかかわる図面類、写真、出土遺物等はすべて当協会で保管している。

凡 例

1. 本書に掲載した遺構実測図の方位は、すべて国土座標第VI系の座標北を示す。
2. 本書に掲載した遺物実測図番号と図版の遺物番号は対応する。又、図版掲載遺物については実測図の通し番号を○で囲んでいる。
3. 本調査においては、遺構測量は航空写真による図化を実施しており、本書に掲載した遺構図はそれを原図として作成した。
4. 本書に掲載した遺跡分布図は、大阪府文化財分布図（1991年3月）より抜粋した。なお、遺跡番号は独自の番号に振り替えている。
5. 本書で使用した遺構番号は、調査および整理段階でのものとは異なる。これは、検出した遺構が2000に及んでおり、そのすべてに通し番号を付しているため、そのまま本書で記載すると混乱をきたす恐れがあるため、したがって本書では、記載した遺構にのみ種類ごとに通し番号を付している。調査、整理段階との対照については本文中に対照表を掲げている。
6. 本書で使用した遺構の記号は当協会の発掘調査規程の表記に基づき以下の記号を記入して示した。
OB：掘立柱建物 OD：竪穴住居 OF：柵 OH：炉 OO：土坑
OP：柱穴 OR：河川 OS：溝 OW：井戸 OL：池 OX：その他、不明

7. 土器類は質の相違によって以下のように断面で区別した。

須恵器・陶磁器－黒色，土師器－白色，瓦器・瓦質土器－網目，黒色土器－漆黒色部分に網かけ

8. 土層の色調は「新版 標準土色帖」による。

本文目次

卷頭図版	
序文	
例言	
凡例	
第I章	調査に至る経過…………… 1
第II章	遺跡の環境…………… 3
第1節	地理的環境…………… 3
第2節	歴史的環境…………… 3
第III章	調査の方法…………… 11
第IV章	調査の成果…………… 16
第1節	層序…………… 16
第2節	第1地区…………… 36
第3節	第2地区…………… 61
第4節	第3地区…………… 155
第5節	第4地区…………… 163
第6節	第5地区…………… 191
第7節	第6地区…………… 202
第8節	第7地区…………… 222
第9節	第8地区…………… 231
第10節	包含層出土遺物…………… 307
第V章	まとめ…………… 327
第1節	遺構の検討…………… 327
第2節	出土遺物の検討…………… 334
付章1	山直郷における古代～中世集落の展開…………… 364
付章2	芝ノ垣外遺跡，花粉・珪藻分析…………… 393

挿 図 目 次

第1図	芝ノ垣外遺跡位置図	1
第2図	山直谷周辺の遺跡分布図	5
第3図	調査地地区割模式図	10
第4図	地区全体図	11
第5図	第1地区・第2地区土層断面図	17～18
第6図	第3地区・第4地区土層断面図	21～22
第7図	第5地区・第6地区土層断面図	25～26
第8図	第7地区・第8地区土層断面図	29～30
第9図	芝ノ垣外遺跡基本土層柱状図	31～32
第10図	第1地区平面図	33～34
第11図	1-〇〇平面図・断面図	36
第12図	1-〇〇出土遺物	36
第13図	1-〇S平面図・断面図	37
第14図	1-〇S出土遺物(1)	39
第15図	1-〇S出土遺物(2)	40
第16図	1-〇S出土遺物(3)	41
第17図	1-〇S出土遺物(4)	42
第18図	1-〇S出土遺物(5)	43
第19図	1-〇S出土遺物(6)	44
第20図	1-〇S出土遺物(7)	45
第21図	1-〇S出土遺物(8)	46
第22図	1-〇S出土遺物(9)	47
第23図	1-〇S出土遺物(10)	48
第24図	1-〇B平面図・断面図	49
第25図	2-〇B平面図・断面図	49
第26図	2-〇B出土遺物	50

第27図	3-OB平面図・断面図	51
第28図	3-OB出土遺物	51
第29図	2-OO平面図・断面図	52
第30図	3-OO平面図・断面図	52
第31図	3-OO出土遺物	53
第32図	4-OO平面図・断面図	53
第33図	4-OO出土遺物	53
第34図	5-OO平面図・断面図	54
第35図	2-OS平面図・断面図	54
第36図	2-OS出土遺物	54
第37図	第1地区平安時代ピット平面図・断面図	56
第38図	第1地区平安時代ピット出土遺物	57
第39図	第2地区平面図	59～60
第40図	4-OB平面図・断面図	61
第41図	5-OB平面図・断面図	62
第42図	6-OB平面図・断面図	62
第43図	7-OB平面図・断面図	63
第44図	7-OB出土遺物	63
第45図	8-OB平面図・断面図	64
第46図	6-OO平面図・断面図	64
第47図	6-OO出土遺物	64
第48図	7-OO平面図・断面図	65
第49図	7-OO出土遺物	65
第50図	8-OO平面図・断面図	66
第51図	8-OO出土遺物	66
第52図	9-OO平面図・断面図	66
第53図	9-OO出土遺物(1)	67
第54図	9-OO出土遺物(2)	68
第55図	10-OO平面図・断面図	68
第56図	10-OO出土遺物	69

第57図	11-〇〇平面図・断面図	69
第58図	11-〇〇出土遺物	70
第59図	12-〇〇平面図・断面図	70
第60図	1-〇S平面図・断面図	71
第61図	1-〇S遺物出土状況(1)	72
第62図	1-〇S遺物出土状況(2)	73
第63図	1-〇S出土遺物(1)	74
第64図	1-〇S出土遺物(2)	75
第65図	1-〇S出土遺物(3)	76
第66図	1-〇S出土遺物(4)	77
第67図	1-〇S出土遺物(5)	78
第68図	1-〇S出土遺物(6)	79
第69図	1-〇S出土遺物(7)	80
第70図	1-〇S出土遺物(8)	82
第71図	1-〇S出土遺物(9)	83
第72図	1-〇S出土遺物(10)	84
第73図	1-〇S出土遺物(11)	85
第74図	1-〇S出土遺物(12)	86
第75図	1-〇S出土遺物(13)	87
第76図	1-〇S出土遺物(14)	88
第77図	1-〇S出土遺物(15)	89
第78図	1-〇S出土遺物(16)	90
第79図	1-〇S出土遺物(17)	92
第80図	1-〇S出土遺物(18)	93
第81図	1-〇S出土遺物(19)	94
第82図	1-〇S出土遺物(20)	95
第83図	1-〇S出土遺物(21)	96
第84図	1-〇S出土遺物(22)	98
第85図	1-〇S出土遺物(23)	99
第86図	1-〇S出土遺物(24)	100

第87図	1-O S 出土遺物(25)……………	101
第88図	1-O S 出土遺物(26)……………	102
第89図	1-O S 出土遺物(27)……………	103
第90図	1-O S 出土遺物(28)……………	104
第91図	1-O S 出土遺物(29)……………	105
第92図	1-O S 出土遺物(30)……………	106
第93図	1-O S 出土遺物(31)……………	107
第94図	1-O S 出土遺物(32)……………	108
第95図	1-O S 出土遺物(33)……………	109
第96図	1-O S 出土遺物(34)……………	110
第97図	1-O S 出土遺物(35)……………	111
第98図	1-O S 出土遺物(36)……………	112
第99図	1-O S 出土遺物(37)……………	113
第100図	1-O S 出土遺物(38)……………	114
第101図	3-O S 平面図・断面図……………	115
第102図	3-O S 出土遺物……………	116
第103図	4-O S 平面図・断面図……………	117
第104図	6-O S 平面図・断面図……………	118
第105図	第2地区奈良時代ピット平面図・断面図……………	119
第106図	第2地区奈良時代ピット出土遺物(1)……………	120
第107図	第2地区奈良時代ピット出土遺物(2)……………	123
第108図	9-O B 平面図・断面図……………	125
第109図	10-O B 平面図・断面図……………	125
第110図	12-O B 平面図・断面図……………	126
第111図	1-O F 平面図・断面図……………	127
第112図	2-O F 平面図・断面図……………	128
第113図	2-O F 出土遺物……………	129
第114図	1-O W 平面図・断面図……………	130
第115図	1-O W 出土遺物(1)……………	132
第116図	1-O W 出土遺物(2)……………	133

第117図	1-OW出土遺物(3)……………	134
第118図	13-OO平面図・断面図……………	135
第119図	13-OO遺物出土状況……………	135
第120図	13-OO出土遺物(1)……………	136
第121図	13-OO出土遺物(2)……………	137
第122図	14-OO平面図・断面図……………	137
第123図	14-OO遺物出土状況……………	138
第124図	14-OO出土遺物(1)……………	139
第125図	14-OO出土遺物(2)……………	140
第126図	15-OO平面図・断面図……………	141
第127図	15-OO出土遺物……………	141
第128図	32-OP遺物出土状況……………	141
第129図	32-OP出土遺物……………	141
第130図	第2地区平安時代ピット平面図・断面図……………	142
第131図	第2地区平安時代ピット出土遺物……………	143
第132図	16-OO平面図・断面図……………	145
第133図	16-OO遺物出土状況……………	145
第134図	16-OO出土遺物(1)……………	146
第135図	16-OO出土遺物(2)……………	147
第136図	16-OO出土遺物(3)……………	148
第137図	16-OO出土遺物(4)……………	149
第138図	16-OO出土遺物(5)……………	150
第139図	17-OO出土遺物……………	151
第140図	7-OS平面図・断面図……………	151
第141図	第3地区平面図……………	153~154
第142図	1-OD平面図・断面図……………	155
第143図	2-OD平面図・断面図……………	156
第144図	13-OB平面図・断面図……………	156
第145図	14-OB平面図・断面図……………	157
第146図	8-OS平面図・断面図……………	157

第147図	1-O S 平面図・断面図	159
第148図	18-O O 出土遺物	160
第149図	9-O S 平面図・断面図	160
第150図	9-O S 出土遺物	160
第151図	第4地区平面図	161~162
第152図	15-O B 平面図・断面図	163
第153図	15-O B 遺物出土状況	163
第154図	15-O B 根石検出状況	164
第155図	15-O B 出土遺物	164
第156図	16-O B 平面図・断面図	165~166
第157図	16-O B 根石検出状況	168
第158図	16-O B 出土遺物	169
第159図	19-O O 平面図・断面図	169
第160図	19-O O 出土遺物	170
第161図	20-O O 平面図・断面図	170
第162図	20-O O 出土遺物	171
第163図	21-O O 出土遺物	171
第164図	22-O O 出土遺物	172
第165図	23-O O 平面図・断面図	172
第166図	23-O O 出土遺物	173
第167図	24-O O 出土遺物	173
第168図	10-O S 平面図・断面図	174
第169図	10-O S 出土遺物	174
第170図	11-O S 出土遺物	175
第171図	12-O S 出土遺物	176
第172図	13-O S 平面図・断面図	176
第173図	13-O S 出土遺物	177
第174図	14-O S 平面図・断面図	177
第175図	14-O S 遺物出土状況	178
第176図	14-O S 出土遺物(1)	179

第177図	14-OS出土遺物(2)……………	180
第178図	14-OS出土遺物(3)……………	182
第179図	14-OS出土遺物(4)……………	183
第180図	15-OS平面図・断面図……………	184
第181図	15-OS出土遺物……………	185
第182図	16-OS出土遺物……………	186
第183図	第4地区平安時代ピット出土遺物……………	187
第184図	第5地区平面図……………	189~190
第185図	1-OR平面図・断面図……………	191
第186図	17-OB平面図・断面図……………	192
第187図	17-OB出土遺物……………	192
第188図	18-OB平面図・断面図……………	193
第189図	第5地区奈良時代ピット平面図・断面図……………	195
第190図	53-OP出土遺物……………	196
第191図	1-OX平面図・断面図……………	197
第192図	1-OX出土遺物……………	198
第193図	26-OO平面図・断面図……………	200
第194図	17-OS平面図・断面図……………	200
第195図	27-OO平面図・断面図……………	201
第196図	19-OS平面図・断面図……………	201
第197図	20-OS平面図・断面図……………	202
第198図	第6地区平面図……………	203~204
第199図	3-OD平面図・断面図……………	205
第200図	19-OB平面図・断面図……………	206
第201図	1-OH平面図・断面図……………	207
第202図	28-OO平面図・断面図……………	207
第203図	28-OO出土遺物……………	208
第204図	29-OO平面図・断面図……………	208
第205図	29-OO遺物出土状況……………	209
第206図	29-OO出土遺物(1)……………	210

第207図	29-〇〇出土遺物(2)……………	211
第208図	29-〇〇出土遺物(3)……………	212
第209図	29-〇〇出土遺物(4)……………	213
第210図	30-〇〇遺物出土状況……………	214
第211図	30-〇〇出土遺物……………	215
第212図	31-〇〇出土遺物……………	215
第213図	58-〇P 平面図・断面図……………	216
第214図	58-〇P 遺物出土状況……………	217
第215図	58-〇P 出土遺物……………	218
第216図	1-〇R 平面図・断面図……………	218
第217図	1-〇R 出土遺物……………	219
第218図	21-〇S 平面図・断面図……………	219
第219図	21-〇S 遺物出土状況……………	219
第220図	21-〇S 出土遺物……………	220
第221図	32-〇〇平面図・断面図……………	221
第222図	32-〇〇出土遺物……………	221
第223図	33-〇〇平面図・断面図……………	221
第224図	33-〇〇出土遺物……………	221
第225図	22-〇S 平面図・断面図……………	222
第226図	22-〇S 出土遺物……………	222
第227図	第7地区平面図……………	223~224
第228図	59-〇P 平面図・断面図……………	225
第229図	59-〇P 出土遺物……………	225
第230図	23-〇S 平面図・断面図……………	225
第231図	23-〇S 出土遺物……………	226
第232図	24-〇S 平面図・断面図……………	227
第233図	25-〇S 平面図・断面図……………	227
第234図	第7地区鎌倉時代ピット平面図・断面図……………	228
第235図	第8地区第2面平面図……………	229~230
第236図	20-〇B 平面図・断面図……………	232

第237図	20-OB柱穴根石検出状況	233
第238図	20-OB出土遺物	233
第239図	2-OW平面図・断面図	234
第240図	2-OW出土遺物(1)	236
第241図	2-OW出土遺物(2)	237
第242図	2-OW出土遺物(3)	238
第243図	2-OW出土遺物(4)	239
第244図	34-OO平面図・断面図	240
第245図	34-OO出土遺物(1)	241
第246図	34-OO出土遺物(2)	242
第247図	35-OO平面図・断面図	243
第248図	35-OO出土遺物	243
第249図	36-OO平面図・断面図	244
第250図	36-OO出土遺物	244
第251図	37-OO出土遺物	245
第252図	38-OO平面図・断面図	246
第253図	38-OO出土遺物	247
第254図	26-OS平面図・断面図	247
第255図	26-OS出土遺物(1)	248
第256図	26-OS出土遺物(2)	249
第257図	26-OS出土遺物(3)	250
第258図	26-OS出土遺物(4)	251
第259図	26-OS出土遺物(5)	252
第260図	26-OS出土遺物(6)	253
第261図	26-OS出土遺物(7)	254
第262図	26-OS出土遺物(8)	255
第263図	26-OS出土遺物(9)	256
第264図	26-OS出土遺物(10)	257
第265図	26-OS出土遺物(11)	259
第266図	26-OS出土遺物(12)	260

第267図	26-O S 出土遺物(13)·····	261
第268図	26-O S 出土遺物(14)·····	262
第269図	26-O S 出土遺物(15)·····	263
第270図	26-O S 出土遺物(16)·····	264
第271図	26-O S 出土遺物(17)·····	265
第272図	26-O S 出土遺物(18)·····	266
第273図	26-O S 出土遺物(19)·····	267
第274図	26-O S 出土遺物(20)·····	268
第275図	26-O S 出土遺物(21)·····	269
第276図	26-O S 出土遺物(22)·····	270
第277図	26-O S 出土遺物(23)·····	271
第278図	26-O S 出土遺物(24)·····	272
第279図	27-O S 平面図・断面図·····	273
第280図	27-O S 出土遺物·····	273
第281図	28-O S 出土遺物·····	274
第282図	29-O S 平面図・断面図·····	274
第283図	29-O S 出土遺物·····	275
第284図	30-O S 出土遺物·····	275
第285図	31-O S 平面図・断面図·····	275
第286図	66-O P 出土遺物·····	276
第287図	67-O P 平面図・断面図·····	276
第288図	67-O P 出土遺物·····	276
第289図	68-O P 平面図・断面図·····	277
第290図	68-O P 出土遺物·····	277
第291図	69-O P 平面図・断面図·····	277
第292図	69-O P 出土遺物·····	277
第293図	70-O P 平面図・断面図·····	278
第294図	70-O P 出土遺物·····	278
第295図	71-O P 出土遺物·····	278
第296図	2-O R 出土遺物(1)·····	279

第297図	2-OR出土遺物(2)……………	280
第298図	3-OR平面図・断面図……………	280
第299図	3-OR出土遺物……………	281
第300図	4-OR出土遺物……………	282
第301図	1-OL平面図・断面図……………	282
第302図	1-OL出土遺物(1)……………	284
第303図	1-OL出土遺物(2)……………	285
第304図	2-OL平面図・断面図……………	286
第305図	2-OL出土遺物……………	286
第306図	第8地区第1面平面図……………	287~288
第307図	上面39-OO平面図・断面図……………	289
第308図	39-OO出土遺物(1)……………	290
第309図	39-OO出土遺物(2)……………	291
第310図	39-OO出土遺物(3)……………	292
第311図	39-OO出土遺物(4)……………	293
第312図	39-OO出土遺物(5)……………	295
第313図	39-OO出土遺物(6)……………	296
第314図	39-OO出土遺物(7)……………	297
第315図	39-OO出土遺物(8)……………	298
第316図	39-OO出土遺物(9)……………	299
第317図	39-OO出土遺物(10)……………	300
第318図	39-OO出土遺物(11)……………	301
第319図	40-OO平面図・断面図……………	302
第320図	40-OO出土遺物(1)……………	303
第321図	40-OO出土遺物(2)……………	304
第322図	40-OO出土遺物(3)……………	305
第323図	40-OO出土遺物(4)……………	306
第324図	第1地区包含層出土遺物(1)……………	308
第325図	第1地区包含層出土遺物(2)……………	309
第326図	第2地区包含層出土遺物……………	312

第327図	第3地区包含層出土遺物……………	312
第328図	第4地区包含層出土遺物(1)……………	314
第329図	第4地区包含層出土遺物(2)……………	315
第330図	第5地区包含層出土遺物(1)……………	317
第331図	第5地区包含層出土遺物(2)……………	318
第332図	第6地区包含層出土遺物(1)……………	320
第333図	第6地区包含層出土遺物(2)……………	321
第334図	第7地区包含層出土遺物……………	322
第335図	第8地区包含層出土遺物(1)……………	324
第336図	第8地区包含層出土遺物(2)……………	325
第337図	古墳時代前期遺構配置図……………	328
第338図	奈良時代遺構配置図……………	330
第339図	平安時代遺構配置図……………	332
第340図	平安時代末～鎌倉時代遺構配置図……………	333
第341図	山直谷遺跡配置図……………	365
第342図	第1群建物配置図……………	366
第343図	第2群建物配置図……………	368
第344図	第3群建物配置図……………	370
第345図	第4群建物配置図(1)……………	372
第346図	第4群建物配置図(2)……………	373
第347図	山直谷中央部遺跡群集落遺構配置全体図……………	377～378
第348図	第5群建物配置図……………	379
第349図	第6群建物配置図(1)……………	380
第350図	第6群建物配置図(2)……………	381
第351図	第6群建物配置図(3)……………	382
第352図	第7群遺構配置図……………	384
第353図	山直郷付近の条里分布……………	389
第354図	山直谷遺跡群と牛滝街道……………	391
第355図	試料採取地点図……………	393
第356図	花粉分析フローチャート……………	394

第357図	珪藻分析フローチャート……………	394
第358図	No.1 地点花粉ダイアグラム……………	395～396
第359図	No.2 地点（井戸）花粉ダイアグラム……………	395～396
第360図	No.3 地点花粉ダイアグラム……………	397～398
第361図	No.4 地点花粉ダイアグラム……………	397～398
第362図	No.5 地点花粉ダイアグラム……………	399～400
第363図	No.6 地点花粉ダイアグラム……………	399～400
第364図	No.7 地点花粉ダイアグラム……………	401～402
第365図	No.8 地点花粉ダイアグラム……………	401～402
第366図	No.9 地点花粉ダイアグラム……………	403～404
第367図	No.10 地点花粉ダイアグラム……………	403～404
第368図	No.11 地点花粉ダイアグラム……………	403～404
第369図	No.2 地点（井戸）珪藻ダイアグラム……………	405～406

巻頭図版目次

巻頭図版 1	（上）遺跡遠景（Nより，山直谷奥部を望む） （下）調査地全景（Sより）
巻頭図版 2	（上）第2地区奈良時代集落（Sより） （下）第2地区奈良時代大溝出土遺物
巻頭図版 3	（上）第4地区平安時代掘立柱建物（Eより） （下）第4地区平安時代集落出土遺物
巻頭図版 4	（上）第6地区古墳時代前期竪穴住居（Eより） （下）第8地区鎌倉時代石組井戸（Eより）

目 次

第1表	遺跡地名表	6~7
第2表	新旧遺構番号対照表	13~15
第3表	須恵器杯形態分類表	334
第4表	須恵器杯蓋形態分類表	335
第5表	須恵器皿形態分類表	336
第6表	須恵器鉢形態分類表	337
第7表	須恵器高杯形態分類表	338
第8表	須恵器甕形態分類表	339
第9表	須恵器壺形態分類表	340
第10表	須恵器壺蓋形態分類表	341
第11表	須恵器横瓶形態分類表	342
第12表	土師器杯形態分類表	343
第13表	土師器皿形態分類表	344
第14表	土師器甕形態分類表	345
第15表	土師器鉢形態分類表	346
第16表	土師器鍋形態分類表	347
第17表	土師器高杯形態分類表	348
第18表	1-O-S出土土器器種別数量統括表	348
第19表	1-O-S出土土器構成表	349
第20表	1-O-S出土土器用途別構成表	349
第21表	1-O-S出土土器器種別構成表	349
第22表	芝ノ垣外遺跡出土黒色土器碗・瓦器碗型式分類表	351~352
第23表	芝ノ垣外遺跡出土瓦器碗形態指数表	354
第24表	芝ノ垣外遺跡出土土羽釜時期別分類表	355~356
第25表	芝ノ垣外遺跡出土平安時代~鎌倉時代須恵器・土師器時期別 分類表	359~360

第26表	平安時代～鎌倉時代遺構変遷表	362
第27表	第1群時期別遺構構成表	367
第28表	第2群時期別遺構構成表	369
第29表	第3群時期別遺構構成表	371
第30表	第4群時期別遺構構成表	374
第31表	第5群時期別遺構構成表	379
第32表	第6群時期別遺構構成表	383
第33表	第7群時期別遺構構成表	385
第34表	山直郷内集落変遷表	386
第35表	花粉帯対比表	409

挿入写真目次

写真1	花粉化石の顕微鏡写真(1)
写真2	花粉化石の顕微鏡写真(2)
写真3	珪藻化石の顕微鏡写真

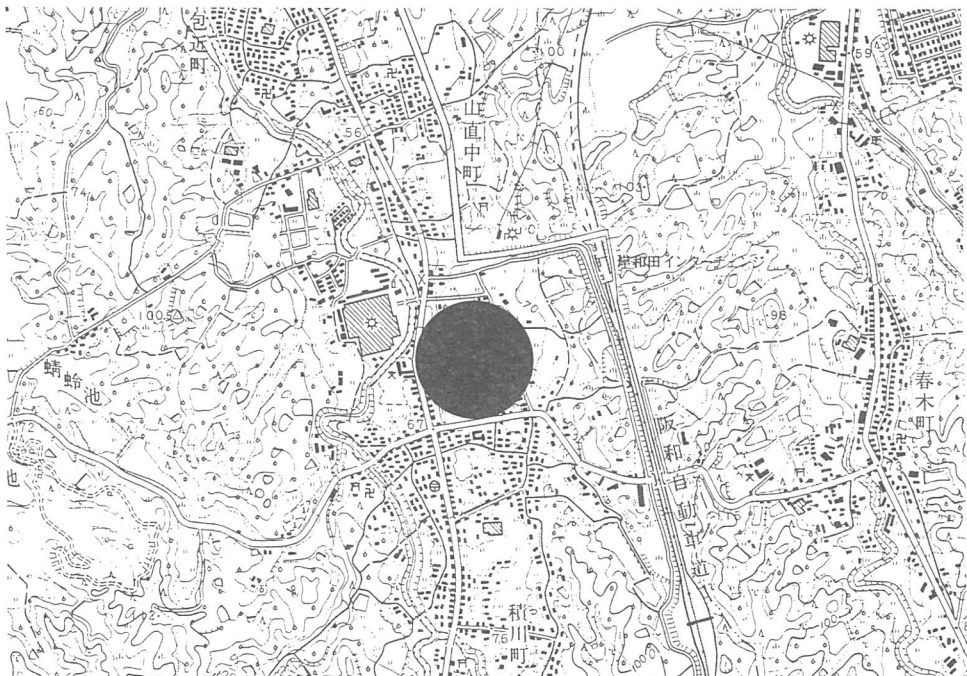
第 I 章 調査に至る経過

芝ノ垣外遺跡は岸和田市稲葉町に所在する遺跡である（第1図）。

昭和57年度に大阪府教育委員会によって実施された、近畿自動車道松原・海南線予定地内の分布調査の際に新たに発見された遺跡であり、当初は「蓮光寺遺跡」と称された。

昭和58年度に実施された主要地方道岸和田・牛滝山・貝塚線予定地内の分布調査によって、蓮光寺遺跡はその北半部を「山直中遺跡」、南半部を「芝ノ垣外遺跡」に細分され、今日に至っている。

今回、主要地方道岸和田・牛滝山・貝塚線のうち、芝ノ垣外遺跡にかかる部分の工事着工が具体化し、工事予定地内を試掘調査した結果、ほぼ全域にわたって遺構・遺物が検出されたため、大阪府教育委員会、大阪府土木部が協議し、予定地内を全面発掘調査する事で合意した。主要地方道岸和田・牛滝山・貝塚線建設工事は関西国際空港関連事業であり、発掘調査は大阪府教育委員会文化財保護課の指導のもとに、財団法人大阪府埋蔵文化財協



第1図 芝ノ垣外遺跡位置図

会が担当して実施する事となった。

現地調査は平成3年度・平成4年度の2ヶ年にわたり行われ、平成3年度は芝ノ垣外遺跡（その2）・（その3）調査区（計6,940m²）を平成3年4月20日～平成4年3月25日までの期間で実施し、平成4年度は芝ノ垣外遺跡（その4）調査区（3,400m²）を平成4年4月28日～同年10月15日までの期間で実施した。

第II章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

泉州地域の景観は、和泉山脈が東部を南北に連なっており、和泉山脈・和泉山脈から派生する丘陵地帯・海岸寄りの狭小な沖積地の3形態から形成されている。

丘陵は、和泉山脈を源とする牛滝川、春木川、津田川などの河川および、これらから分流する中小河川により開析され、周辺に多くの谷地形を形成している。その中で、牛滝川によって開析された谷が山直谷であり、芝ノ垣外遺跡は約6.7kmの山直谷の中央付近の、牛滝川右岸に発達した河岸段丘上に立地する。牛滝川左岸には段丘が発達しておらず、山直谷に数多く散在する遺跡のほとんどは牛滝川右岸の段丘上に存在している。

調査地の周辺は、大きくは西側の牛滝川へ向かって下る傾斜面で、阪和道の開通によって周辺の環境は様変わりしてはいるが、主として水田・果樹園あるいは畑地として利用されていた。調査区も道路用地となる以前は水田・畑地・みかん畑などとなっていた。

調査区の南西方に隣接する地点を古曽谷川が北流している。古曽谷川は付近の水田・畑などの水源となっている川で、調査区の西方で牛滝川に合流している。当地は大阪層群によって形成された低位段丘となっており、今回の調査においても、地山に多くの礫を含んだ地域がみられた。この礫はいわゆる段丘礫層と考えられる。付近の湧水層はかなり低いものと思われる、そのため現在でも井戸はほとんど見られない。この事は調査結果にもあらわれており、かなりの規模の集落跡を検出したが、その中で明確に井戸といえる遺構は2基あるのみである。したがって、付近では古くから河川水を農業経営の基盤として利用していたものと思われる。

第2節 歴史的環境

芝ノ垣外遺跡が立地している山直谷の各遺跡に関しては、近年発掘調査が数多く実施されている。これらの遺跡は分布調査実施時に比べて面的な拡大が顕著となっており、そのため山直谷周辺の歴史的環境もかなり明確なものとなってきている。これらについては、

すでに報告されている主要地方道岸和田・牛滝山・貝塚線関連の調査成果の中に詳しく記載されているので、ここではその概略を記すにとどめる事とする。以下、時代順に代表的な遺跡をあげる。

岸和田市内では現在までに旧石器時代の遺構が発掘調査された例はみられない。しかし表面採集資料として西山遺跡、琴山遺跡、葛城山頂遺跡などに例がみられ、上フジ遺跡からは発掘調査の際に包含層から国府型ナイフ形石器が出土している。⁽¹⁾

縄文時代では、箕土路遺跡から中期初頭の土器が出土しており、現在ではこの類例が岸和田市内で知られている最古の縄文土器である。⁽²⁾

山ノ内遺跡、軽部池西遺跡からは後期の遺構・遺物が検出されており、中でも山ノ内遺跡からは後期の土器・石器が多量に出土している。又、上フジ遺跡からは、土器は含まれないが後期と考えられる石器が出土している。⁽³⁾⁽⁴⁾⁽⁵⁾

弥生時代では、縄文時代から引き続いてその分布は山直谷の入口付近にのみ集中しており、中央部より奥には類例をみない。主要地方道岸和田・牛滝山・貝塚線関連の発掘調査で西大路遺跡、軽部池西遺跡、山ノ内遺跡などから弥生時代の遺構・遺物が検出されている。⁽⁶⁾

古墳時代には山直谷の開発が徐々に進みはじめ、山直谷入口付近でしだいに類例がみられるようになる。⁽⁷⁾

山直谷に存在する各遺跡から古墳時代前期の集落が検出された例は今回の調査以前には皆無であった。しかし、山直谷入口部の東側には全長約200mの前方後円墳摩湯山古墳が存在し、近辺に所在する三田遺跡からはほぼ同時期の土壌墓群が検出されている。⁽⁸⁾

古墳時代後期には、山直谷の開発が本格的に行われはじめ、山直谷入口部から中央部にかけてのかなりの遺跡で遺構が検出されている。

三田遺跡では、6世紀代を中心とした竪穴住居・掘立柱建物などからなる集落が継続的に営まれていた。⁽⁹⁾

上フジ遺跡からは、5世紀後半から6世紀後半の竪穴住居が検出されている。⁽¹⁰⁾

二俣池北遺跡からは、6世紀後半の竪穴住居が検出されている。⁽¹¹⁾

古墳時代後期にはじめられた山直谷の本格的な開発行為は、飛鳥・奈良時代には急速に進展し、山直谷中央部から奥でも同時期の遺跡の存在が確認されている。

二俣池北遺跡、水込遺跡からは、飛鳥時代から奈良時代にかけての集落が検出されている。



第2図 山直谷周辺の遺跡分布図

番号	遺 跡 名	番号	遺 跡 名
1	和気遺跡	38	西大路遺跡
2	小田遺跡	39	今木遺跡
3	軽部池西遺跡	40	今木廃寺
4	軽部池	41	熊野街道
5	観音寺のくすのき	42	〔市指〕天 円勝寺の松
6	観音寺城跡	43	八木城跡
7	狐塚古墳	44	大路城跡
8	寺門古墳・古墓	45	丸山古墳
9	観音寺山遺跡	46	山ノ内遺跡
10	信太千塚古墳群	47	山直北遺跡
11	願成遺跡	48	大西遺跡
12	〔重文〕高橋家住宅	49	田鶴羽関
13	池田下遺跡	50	池尻古墳
14	唐国池田山古墳群	51	池尻町遺跡
15	池田山遺跡	52	〔市指〕史 貝吹山古墳
16	和泉丘陵A87 地点遺跡	53	〔市指〕史 志阿弥法師塚古墳
17	和泉丘陵A 1 地点遺跡	54	長坂古墳
18	和泉丘陵A 8 地点遺跡	55	〔市指〕史 風吹山古墳
19	和泉丘陵A81 地点遺跡	56	〔市指〕史 無名塚古墳
20	ウトジ池古墳群	57	〔市指〕史 女郎塚古墳
21	和泉向代古墳群	58	〔市指〕史 光明塚古墳
22	明神原古墳	59	久米田寺跡〔府規〕史 久米田寺境内
23	和泉丘陵A10 地点遺跡	60	円筒棺出土地
24	マイ山古墳	61	〔市指〕建 伝亀山天皇・聖武天皇・光明皇后供養塔
25	和泉丘陵A15 地点遺跡	62	今木城跡
26	和泉丘陵A17 地点遺跡	63	田治米廃寺
27	和泉丘陵A20 地点遺跡	64	田治米宮内遺跡
28	和泉丘陵B13 号古墳	65	岡山矢取遺跡
29	和泉丘陵B 2 号古墳	66	〔市指〕天 いちよう
30	〔国宝〕青磁鳳凰耳花生ほか	67	三田遺跡
31	和泉丘陵A54 地点遺跡	68	上フジ遺跡
32	〔府指〕天 春日神社のまき・つばき	69	久米田池内遺跡
33	久井A 3 地点遺跡	70	〔府規〕史名 久米田池
34	伝契沖居住地	71	久米田池内須恵窯跡
35	箕土道遺跡	72	岡山ハツ川遺跡
36	犬飼堂廃寺	73	岡山狐塚古墳
37	下池田遺跡	74	松尾池尻埴輪窯跡

第1表 遺跡地名表

番号	遺 跡 名	番号	遺 跡 名
75	岡山遺跡	112	土居城跡
76	〔市指〕史 岡山御坊跡	113	石塚古墳
77	古銭出土地	114	芝ノ垣外遺跡
78	西山古墳	115	土井ノ木遺跡
79	楠本神社古墳	116	南ノ坊古墳
80	高山古墳	117	〔市指〕天 稲葉町菅原神社々叢
81	三田墓地	118	稲葉城跡
82	どぞく遺跡	119	稲葉墓地
83	馬塚古墳	120	〔市指〕天 稲葉町地藏堂の椎
84	重ノ原遺跡	121	〔市指〕建 宝篋印塔
85	重ノ原古墳	122	中之社遺跡
86	小金塚古墳	123	積川廃寺
87	赤山古墳群	124	〔重文〕 積川神社本殿
88	唐池遺跡	125	宮の後遺跡
89	笠松遺跡	126	〔市指〕天 積川神社の椽
90	尾崎遺跡	127	具足遺跡
91	兒子池東遺跡	128	西方寺遺跡
92	上松狐塚古墳	129	堂ヶ峰廃寺
93	荒子遺跡	130	神ノ木山遺跡
94	琴山遺跡	131	上白原遺跡
95	たな川塚古墳	132	粉河街道
96	三本松下遺跡	133	〔市指〕天 奥家の椽
97	福田城跡	134	意賀美神社遺跡
98	お立場古墳	135	〔市指〕天 意賀美神社々叢
99	箱谷古墳	136	神於銅鐸出土地
100	〔府指〕天 山直大島邸のびやくしん	137	山直神社遺跡
101	二俣池北遺跡	138	〔市指〕天 山直神社々叢
102	水込遺跡	139	〔府指〕有文 山直神社本殿
103	〔国〕史 摩湯山古墳	140	沢峰遺跡
104	イナリ古墳	141	山直墓地
105	馬子塚古墳	142	神於寺跡
106	東山古墳	143	〔市指〕史 神於寺跡
107	三田古墳	144	神於寺瓦窯跡
108	儀平山古墳	145	光忍上人塚古墳〔市指〕史 光忍上人像
109	黒石遺跡	146	河合古墓 ※
110	山直中遺跡		
111	蓮華光寺跡		

芝ノ垣外遺跡の北に隣接する山直中遺跡では、今回の調査で検出された大溝の続きが確認されており、芝ノ垣外遺跡でも、従前の調査によって奈良時代の集落の東限を示すと推定される溝や柵列などが検出されている。

現段階では、山直谷における奈良時代の遺跡は、芝ノ垣外遺跡が最も奥に所在している類例であるが、今回の調査によって、当初の予想よりもかなり南から同時期の遺構が検出されており、今後さらに奥部から奈良時代の遺構が確認される可能性が考えられる。

平安時代には、山直谷の開発行為は一定の水準に達していたものと思われ、谷奥部にまで遺跡の存在が明らかとなっている。

谷入口部の三田遺跡、山直北遺跡などで同時期の遺構・遺物が検出されている。中でも山直北遺跡では大型の掘立柱建物が存在し、緑釉陶器・漆器・斎串などが出土しており、官衙的性格を持つ遺跡と考えられる。

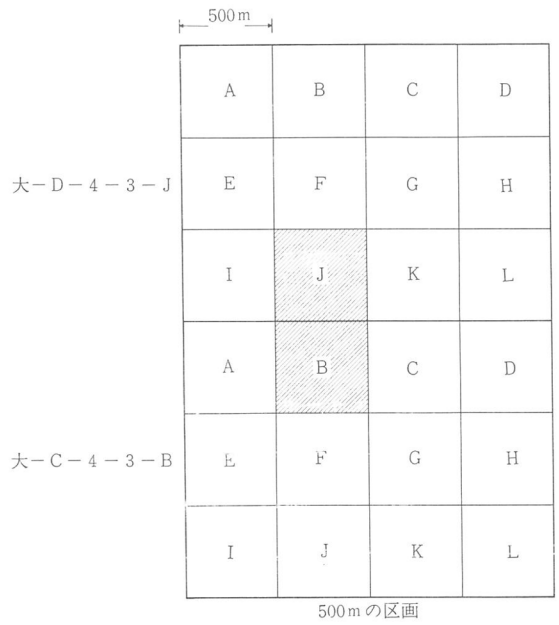
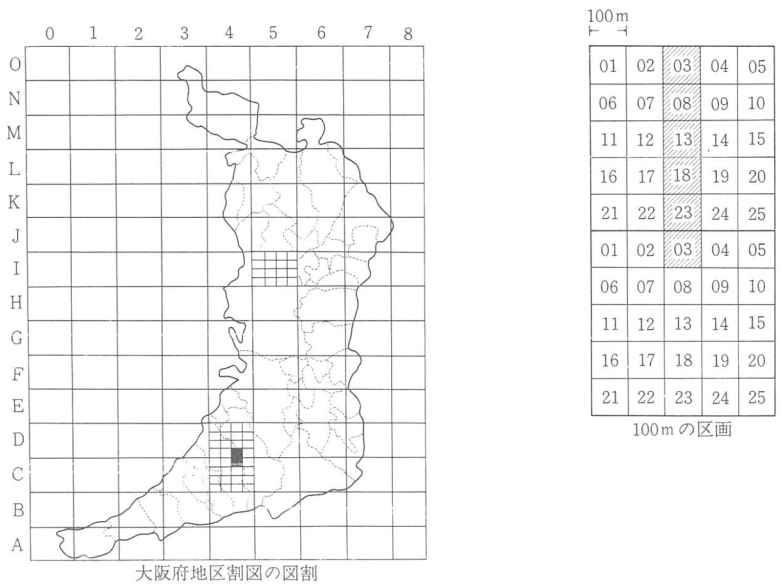
谷中央部付近では、黒石遺跡、山直中遺跡などから同時期の集落が検出されており、当地付近では、時期をへて集落が移動しつつ存在していた事が明確となった。

芝ノ垣外遺跡の南約1 kmには式内社積川神社が存在しており、その周辺には平安時代以降の遺跡が、神社を中心として広い範囲で分布する事が予想される。

山直谷周辺は、従来より遺跡の空白地帯とされてきた所であるが、分布調査及び近年の発掘調査によって、かなり広範に遺跡が分布している事が明確となった。現段階では山直谷の中央部付近まで発掘調査が進展し、当地域の歴史的環境の復元がなされてきている。今後調査がさらに谷奥部にまで及ぶに従って、当地の歴史的景観はより一層明確なものなるろう。

- (1) 岸和田市史 第1巻
- (2) 「上フジ遺跡発掘調査報告書」 (財)大阪府埋蔵文化財協会 1988
- (3) (1)と同じ
- (4) 「軽部池西遺跡発掘調査報告書」 (財)大阪府埋蔵文化財協会 1987
- (5) (2)と同じ
- (6) 「西大路遺跡発掘調査報告書」 (財)大阪府埋蔵文化財協会 1988
- (7) (2)と同じ
- (8) 「三田遺跡発掘調査報告書」 (財)大阪府埋蔵文化財協会 1987
- (9) (8)と同じ

- (10) (2) と同じ
- (11) 「二俣池北遺跡・上フジ遺跡発掘調査報告書」 (財) 大阪府埋蔵文化財協会 1989
- (12) 「山直中遺跡II」 (財) 大阪府埋蔵文化財協会 1990
- (13) 「芝ノ垣外遺跡発掘調査報告書」 (財) 大阪府埋蔵文化財協会 1987
- (14) 「黒石遺跡発掘調査報告書」 (財) 大阪府埋蔵文化財協会 1990
- (15) (12) と同じ



第3図 調査地地区割模式図

第Ⅲ章 調査の方法

当協会では、発掘調査を実施するにあたって新平面直角座標の第Ⅵ座標系をもとにして作成された大阪府地域計画図を用いて独自の地区割りをを行っている。以下、その地区割り方法にしたがった芝ノ垣外遺跡の位置づけを説明する（第3図）。

昭和60年度大阪府発行の1:2500地形図は、大阪府下を120分割したものであり、今回の調査区は、この計画図の「大D-4-3」から「大C-4-15」区画内に含まれる。

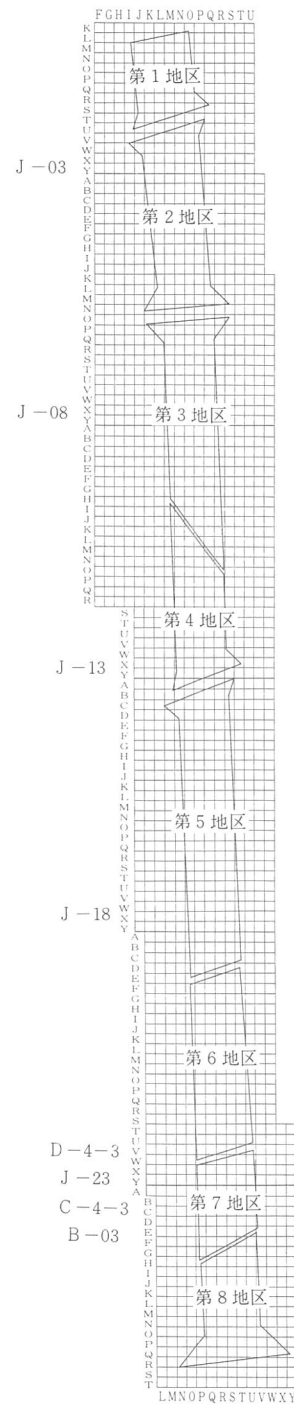
これらの区画を各々500m×500mの区割で12分割し、A～Lの記号を付す。調査区は「大D-4-3」地区のJおよび「大C-4-15」地区のBに相当する。

さらにこの500m区画の地区を100m×100mの方眼に25分割し、各々を01～25までの2桁の数字で表す。調査区はJの03・08・13・18・23・Bの03にまたがっている。

最後に100m区画を4m×4m区画に625等分する。これらの4m方眼は縦横各々A～Yまでのアルファベット25文字の組み合わせで表示する。

これらの地区割りに基づき調査区を表示すると、大D-4-3-J03・J08・J13・J18・J23、大C-4-3-B03となる。

4mの方眼の交点は、第Ⅵ座標系上のX軸、Y軸座標を反映しており、遺構の実測の際の基準となる。また、掘削中に包含層および遺構内から出土した遺



第4図 地区全体図

物の取り上げ、遺構の位置の表現などもこの4 m区画を基準に行った。

調査にあたっては、耕作土を0.6m³級バックホウ（刃先鉄板付）により機械掘削し、床土以下は各層ごとに人力により掘削する方法を採った。又、検出した遺構の実測は、その全体図をヘリコプターによる航空写真測量を行い、その他必要に応じて4 m区画を基準とする実測、平板測量などを行った。

検出された遺構の表現については、当協会独自の表現方法を採用しており、今回もそれにしたがった。実際の調査にあたっては、各々の記号の前に発見された遺構順に1から通し番号を付ける事が定められている。今回の調査区は縦長のトレンチのため、一方から順次調査を進める事ができず、したがって遺構番号も一貫性がないものとなっており、報告書でこのまま用いると第三者の混乱をまねく恐れがある。したがって報告書作成にあたっては、新たに通し番号を付し直して記述した。

今回の調査では2000を超える遺構を検出したが、本書ではこれらの遺構番号を整理し直し、遺構種類ごとに通し番号を付して記述した。新番号は記載した遺構にのみ付す事とした。その他の遺構に関しては旧番号に基づく記録が当協会に保管されている事はいうまでもない。

遺構・遺物の情報の検索の際には、本書に限っては新番号によるが、基本的な整理は旧番号で行なわれているので、以下に新旧の遺構番号の対照表を示しておく。

第1地区	A地区	7-00	426-00	19-OP	594-OP
1-00	002-00	8-00	431-00	20-OP	717-OP
1-OS	001-OS	9-00	484-00	21-OP	226-OP
1-OB	132-OB	10-00	527-00	22-OP	278-OP
2-OB	131-OB	11-00	349-00	23-OP	342-OP
3-OB	130-OB	12-00	432-00	24-OP	356-OP
2-00	017-00	1-OS	001-OS	25-OP	360-OP
3-00	106-00	3-OS	380-OS	26-OP	361-OP
4-00	108-00	4-OS	321-OS	27-OP	408-OP
5-00	085-00	5-OS	607-OS	28-OP	514-OP
2-OS	120-OS	6-OS	707-OS	29-OP	421-OP
1-OP	037-OP	9-OB	821-OB	30-OP	428-OP
2-OP	040-OP	10-OB	822-OB	31-OP	619-OP
3-OP	048-OP	11-OB	823-OB	33-OP	555-OP
4-OP	061-OP	12-OB	824-OB	34-OP	557-OP
5-OP	063-OP	1-OF	364-OF	35-OP	558-OP
6-OP	065-OP	2-OF	329-OF	36-OP	224-OP
7-OP	067-OP	1-OW	306-OW	37-OP	276-OP
8-OP	123-OP	13-00	396-00	38-OP	399-OP
12-OP	104-OP	14-00	674-00	39-OP	406-OP
13-OP	112-OP	15-00	591-00	40-OP	417-OP
14-OP	121-OP	32-OP	438-OP	41-OP	628-OP
第2地区	B地区	16-00	277-00	第3地区	CN地区
4-OB	825-OB	17-00	309-00	1-OD	1060-OD
5-OB	826-OB	7-OS	316-OS	2-OD	1063-OD
6-OB	828-OB	15-OP	351-OP	13-OB	861-OB
7-OB	829-OB	16-OP	551-OP	14-OB	865-OB
8-OB	830-OB	17-OP	561-OP	8-OS	1034-OS
6-00	339-00	18-OP	564-OP	1-OS	001-OS

第2表 新旧遺構番号对照表

18-OO	1071-OO	26-OO	1321-OO	58-OP	1495-OP
9-OS	911-OS	17-OS	1077-OS	1-OR	1076-OR
第4地区	C S地区	27-OO	1142-OO	第7地区	F地区
15-OB	198-OB	18-OS	1090-OS	59-OP	1794-OP
16-OB	218-OB	19-OS	1197-OS	23-OS	1816-OS
19-OO	136-OO	20-OS	1330-OS	24-OS	1820-OS
20-OO	156-OO	47-OP	1185-OP	25-OS	1812-OS
21-OO	175-OO	48-OP	1209-OP	60-OP	1817-OP
22-OO	177-OO	49-OP	1213-OP	61-OP	1819-OP
23-OO	179-OO	50-OP	1214-OP	62-OP	1822-OP
24-OO	182-OO	51-OP	1215-OP	63-OP	1828-OP
25-OO	139-OO	52-OP	1224-OP	64-OP	1847-OP
10-OS	134-OS	53-OP	1226-OP	65-OP	1850-OP
11-OS	135-OS	54-OP	1289-OP	第8地区(第2面)G地区	
12-OS	141-OS	55-OP	1300-OP	20-OB	1765-OB
13-OS	142-OS	56-OP	1338-OP	2-OW	1693-OW
14-OS	143-OS	57-OP	1341-OP	34-OO	1706-OO
15-OS	166-OS	第6地区	E地区	35-OO	1710-OO
16-OS	176-OS	3-OD	1546-OD	36-OO	1712-OO
42-OP	145-OP	19-OB	1789-OB	37-OO	1714-OO
43-OP	147-OP	1-OH	1454-OH	38-OO	1734-OO
44-OP	183-OP	28-OO	1549-OO	26-OS	1731-OS
45-OP	196-OP	29-OO	1568-OO	27-OS	1728-OS
46-OP	220-OP	30-OO	1579-OO	28-OS	1761-OS
第5地区	D地区	31-OO	1598-OO	29-OS	1724-OS
1-OR	1076-OR	32-OO	1586-OO	30-OS	1711-OS
17-OB	1079-OB	33-OO	1588-OO	31-OS	1692-OS
18-OB	1456-OB	21-OS	1400-OS	66-OP	1700-OP
1-OX	1201-OX	22-OS	1430-OS	67-OP	1686-OP

68-OP	1636-OP	2-OR	1719-OR	2-OL	1673-OX
69-OP	1632-OP	3-OR	1709-OR	第8地区(第1面)G地区	
70-OP	1627-OP	4-OR	1675-OR	39-OO	1617-OO
71-OP	1748-OP	1-OL	1727-OX	40-OO	1618-OO

第Ⅳ章 調査の成果

第1節 層序

第1地区

今回の調査区のうちで最も北寄りの地区にあたり、山直中遺跡第Ⅲ区（1990年度、山直中遺跡Ⅱ報告書に掲載）の南側に続く位置にある。現地表高はT.P+64m～64.2mの範囲にある。調査前の状況が畑地、あるいは水田であり、畝などの関係で多少の凹凸はあるが、全体的にはほぼ水平の状況を呈している。層序は基本的には以下の5層に分層できる。

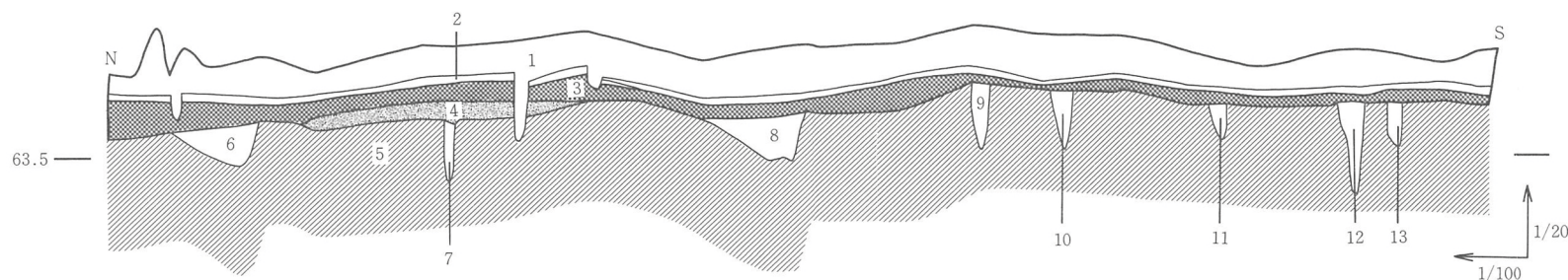
第1層 耕作土である。10Y R3/3暗褐色土で、第1地区の全域に約20cmの厚みを持って堆積している。

第2層 床土である。7.5Y R5/8明褐色粘質土で、第1地区の全域に約5cmの厚みを持って堆積している。

第3層 5Y6/3オリーブ黄色+10Y R6/8明黄褐色砂質シルトで、第1地区の全域に約6cm～20cmの厚みを持って堆積している。須恵器・土師器・瓦器・陶磁器などを包含している。16世紀から17世紀頃の堆積層と考えられる。

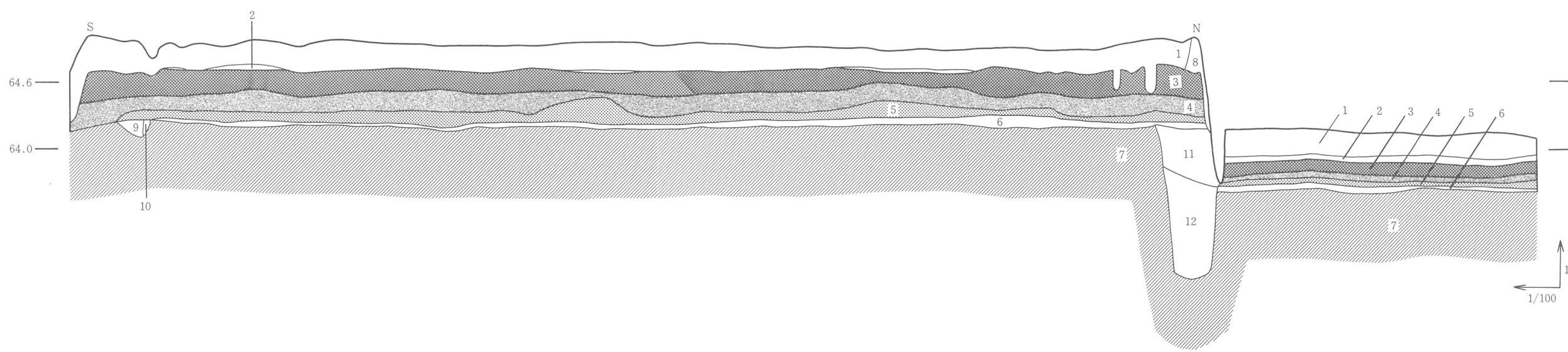
第4層 2.5Y5/2明灰黄色砂質シルトである。第1地区では、地山は南東端部付近が一段高くなっており、そこから北西方向へゆるく傾斜している。その傾斜部分に約5cm～20cmの厚みで堆積しているのが第4層である。須恵器・土師器・瓦器・青磁・白磁などを包含している。14世紀から15世紀頃に堆積した層と考えられる。

第5層 地山である。10Y R5/6黄褐色粘質土で、部分的に礫を多量に含む地域がある。礫を含む地域は段丘礫層が高く盛り上がっている地点であり、この現象は、芝ノ垣外遺跡が存在する低位段丘の背後の丘陵が大阪層群によって形成されていることにより生じている。地山直上が遺構面となっており、多くの遺構が検出された。遺構面は調査区南東端部付近が最も高くT.P+63.8mで、低い地域ではT.P+63.3mを測った。



- 第1地区
- | | |
|-------------------------------------|------------------|
| 1. 暗褐色土 10Y R3/3 (耕土) | 8. 暗灰色土 N3/ |
| 2. 明褐色粘質土 7.5Y R5/8 (床土) | 9. 黒褐色土 2.5Y3/1 |
| 3. オリーブ黄色 5 Y6/3+明黄褐色砂質シルト 10Y R6/8 | 10. 黒褐色土 2.5Y3/1 |
| 4. 明灰黄色砂質シルト 2.5Y5/2 | 11. 黒褐色土 2.5Y3/1 |
| 5. 黄褐色粘質土 10Y R5/6 (地山) | 12. 黒褐色土 2.5Y3/1 |
| 6. 灰色土 N6/ | 13. 黒褐色土 2.5Y3/1 |
| 7. 暗灰色土 N3/ | |

- 第2地区
- | | |
|-------------------------------------|--------------------------|
| 1. 暗褐色土 10Y R3/3 (耕土) | 7. 黄褐色粘質土 10Y R5/6 (地山) |
| 2. 明褐色粘質土 7.5Y R5/8 (床土) | 8. 暗灰色土 N3/ |
| 3. オリーブ黄色 5 Y6/3+明黄褐色砂質シルト 10Y R6/8 | 9. 黒褐色土 7.5Y R3/2 |
| 4. 明灰黄色砂質シルト 2.5Y5/2 | 10. 黄褐色混じり黒褐色土 7.5Y R3/2 |
| 5. 暗灰色粘質土 N3/ | 11. 茶褐色土 7.5Y R4/3 |
| 6. 明褐色土 7.5Y R5/8 | 12. 褐色混じり暗灰色砂質土 N3/ |



第5図 第1地区・第2地区土層断面図

第2地区

第2地区は第1地区の南側で、里道をはさんで隣接する位置にある。現況は北端から約15m南の付近で段差があり、約1m高くなっている。現地表高は下段がT.P+64.1m～64.2m、上段はT.P+64.9m～65mを測った。調査前は水田ないしは畑地であった。層序は上段、下段ともに7層に分層できる。

第1層 耕作土である。10Y R3/3暗褐色土で、第2地区の全域に約20cm～30cmの厚みで堆積している。

第2層 床土である。7.5Y R5/8明褐色粘質土で、下段ではほぼ全域で約5cmの厚みで堆積している。上段ではごく一部分で確認できたのみである。

第3層 5Y6/3オリーブ黄色+10Y R6/8明黄褐色砂質シルトで、第2地区のほぼ全域に堆積がみられる。下段では20cm～30cm、上段では約10cmの厚みを持つ。土師器・瓦器・陶磁器などが出土した。16世紀から17世紀に堆積した層と考えられる。

第4層 2.5Y5/2明灰黄色砂質シルトで、第2地区のほぼ全域に堆積がみられる。下段では約5cm～8cm、上段では約20cmの厚みを持つ。須恵器・土師器・瓦器などが出土した。14世紀から15世紀に堆積した層と考えられる。

第5層 N3/暗灰色粘質土で、第2地区では南端部をのぞく地域に堆積がみられた。下段では約5cm、上段では約5cm～30cmの厚みを持つ。須恵器・土師器・瓦器・黒色土器などが出土した。13世紀頃に堆積した層と考えられる。

第6層 7.5Y R5/8明褐色土で、南端部付近をのぞく地域に堆積がみられた。下段、上段ともに約5cmの厚みを持つ。

第7層 10Y R5/6黄褐色粘質土で、地山である。下段ではT.P+63.6m、上段ではT.P+64.2mを測った。地山直上が遺構面となっており、奈良時代、平安時代、鎌倉時代の遺構が多数検出された。

第3地区

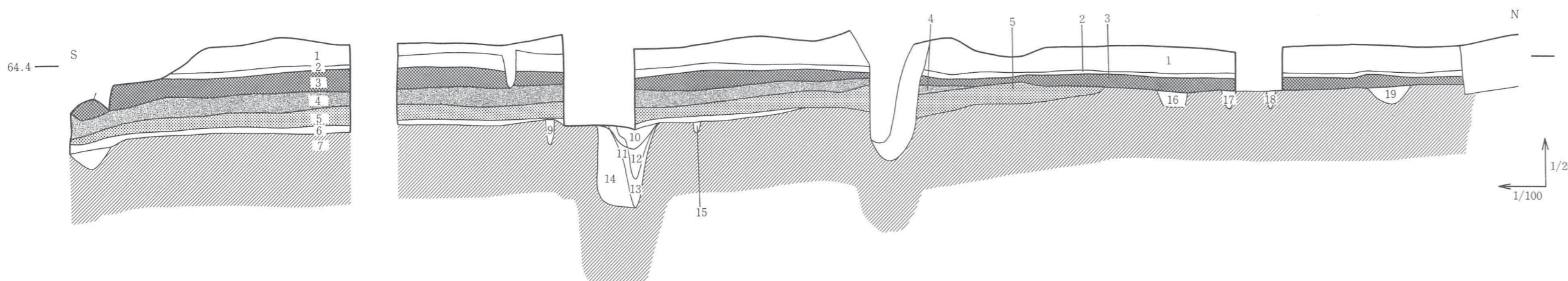
第3地区は第2地区の南側で、里道をはさんで隣接する位置にある。現地表高はほぼ水平で、現地表高はT.P+64.6m付近にある。調査以前は水田ないしは畑地であった。層序は調査区の北端付近では3層、南端付近では6層に分層できる。

- 第1層 耕作土である。10Y R3/3暗褐色土で、第3地区の全域に20cm～30cmの厚みを持って堆積している。
- 第2層 床土である。7.5Y R5/8明褐色粘質土で、第3地区の大部分の地域に約5cmの厚みを持って堆積している。
- 第3層 5Y6/3オリーブ黄色+10Y R6/8明黄褐色砂質シルトで、第3地区の全域に10cm～30cmの厚みを持って堆積している。須恵器・土師器・瓦器・陶磁器などが出土している。16世紀から17世紀頃の堆積層と考えられる。
- 第4層 2.5Y5/2明灰黄色砂質シルトで、第3地区では中央より南側の範囲に堆積がみられる。厚みは5cm～20cmである。須恵器・土師器・瓦器・青磁・白磁などが出土している。14世紀から15世紀の堆積層と考えられる。
- 第5層 N3/暗灰色粘質土で、第3地区では中央より南側の範囲に堆積がみられる。約20cm～30cmの厚みを持つ。13世紀頃の堆積層と考えられる。
- 第6層 7.5Y R5/8明褐色土で、第3地区の南半部に約5cmの厚みを持って堆積がみられる。
- 第7層 地山である。10Y R5/6黄褐色粘質土で、第3地区の南半部には礫を多量に含む地域がある。地山は北から南にゆるく傾斜しており、標高は北端部でT.P+64.1m、南端部ではT.P+63.8mを測った。地山直上が遺構面となっており、古墳時代前期、奈良時代、平安時代、鎌倉時代の遺構が多数検出された。

第4地区

第4地区は第3地区の南側に隣接する位置にある。第3地区と第4地区の境には約1mの段差がみられる。現地表面はほぼ水平で、現地表高はT.P+63.6m付近にある。調査以前は水田ないしは畑地であった。層序は第4地区北半部付近で5層、南半部付近では6層に分層できる。

- 第1層 耕作土である。10Y R3/3暗褐色土で、第4地区の全域に20cm～30cmの厚みを持って堆積している。
- 第2層 床土である。7.5Y R5/8明褐色粘質土で、第4地区の全域に5cm～8cmの厚みを持って堆積している。

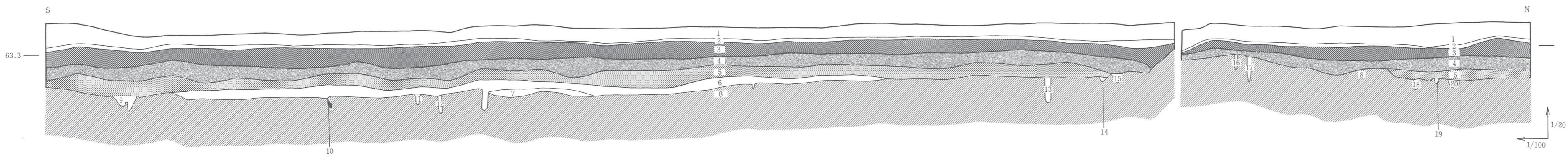


第3地区

- | | | |
|--------------------------------------|-----------------------|---------------------|
| 1. 暗褐色土 10Y R3/3 (耕土) | 8. 暗灰褐色土 7.5Y R4/2 | 15. 黒褐色土 5 Y R3/1 |
| 2. 明褐色粘質土 7.5Y R5/8 (床土) | 9. 暗灰褐色土 7.5Y R4/2 | 16. 暗灰褐色土 7.5Y R4/2 |
| 3. オリーブ黄色 5 Y 6/3+明黄褐色砂質シルト 10Y R6/8 | 10. 明褐色土 7.5Y R5/6 | 17. 暗灰褐色土 7.5Y R4/2 |
| 4. 明灰黄色砂質シルト 2.5Y 5/2 | 11. にぶい赤褐色土 2.5Y R5/3 | 18. 暗灰褐色土 7.5Y R4/2 |
| 5. 暗灰色粘質土 N3/ | 12. 黒褐色土 5 Y R3/1 | 19. 暗灰褐色土 7.5Y R4/2 |
| 6. 明褐色土 7.5Y R5/8 | 13. 黒褐色砂質土 5 Y R2/1 | |
| 7. 黄褐色粘質土 10Y R5/6 (地山) | 14. 灰色砂質土 5 Y 5/1 | |

第4地区

- | | | |
|--------------------------------------|-------------------------|-------------------|
| 1. 暗褐色土 10Y R3/3 (耕土) | 8. 黄褐色粘質土 10Y R5/6 (地山) | 15. 黒褐色土 2.5Y 3/2 |
| 2. 明褐色粘質土 7.5Y R5/8 (床土) | 9. 黒褐色土 2.5Y 3/2 | 16. 黒褐色土 2.5Y 3/2 |
| 3. オリーブ黄色 5 Y 6/3+明黄褐色砂質シルト 10Y R6/8 | 10. 黒褐色土 2.5Y 3/2 | 17. 黒褐色土 2.5Y 3/2 |
| 4. 明灰黄色砂質シルト 2.5Y 5/2 | 11. 黒褐色土 2.5Y 3/2 | 18. 黒褐色土 2.5Y 3/2 |
| 5. 暗灰色粘質土 N3/ | 12. 黒褐色土 2.5Y 3/2 | 19. 黒褐色土 2.5Y 3/2 |
| 6. 明黄褐色土 10Y R6/8 | 13. 黒褐色土 2.5Y 3/2 | 20. 黒褐色土 2.5Y 3/2 |
| 7. にぶい黄褐色砂質シルト 10Y R5/4 | 14. 黒褐色土 2.5Y 3/2 | |



第6図 第3地区・第4地区土層断面図

- 第3層 5Y6/3オリーブ黄色+10YR6/8明黄褐色砂質シルトで、第4地区の全域に20cm～30cmの厚みを持って堆積している。
- 第4層 2.5Y5/2明灰黄色砂質シルトで、第4地区の全域に20cm～30cmの厚みを持って堆積している。
- 第5層 N3/暗灰色粘質土である。第4地区では北端部から約10mまでの範囲と、25mから南端部までの範囲に堆積がみられる。厚みは北端部付近で約10cm、南半部では約20cmを測った。
- 第6層 10YR6/8明黄褐色土で、第4地区の中央部から南端部にかけての地域に堆積がみられる。厚みは約10cmを測った。
- 第7層 10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルトで、第4地区の中央部付近のごく狭い範囲に堆積がみられる。厚みは約5cmを測った。
- 第8層 地山である。10YR5/6黄褐色粘質土で、第4地区では東半部で礫を含む地域がある。地山直上が遺構面となっている。遺構面は東から西にむかってゆるく傾斜しており、T.P+62.9mを測った。第4地区は、東側に存在する丘陵部が最も西方へせり出している地点であり、中世以降の開発の際に丘陵部を大規模に削平しているようで、第4地区の東半部は礫層となっている。そのため東半部では明確な遺構は検出されず、遺構は西半部に集中している。検出された遺構の大部分は平安時代に比定されるものである。

第5地区

第5地区は第4地区の南側に隣接する地区で、里道をはさんで接している。里道部分も第5地区に含めて調査した。第5地区の現地表面は、中央部西壁付近に水路が走っているため、断面では中央部が低くなっているが、現況は北半部で約40cmの段差があり南が高くなっている。標高は北端部でT.P+63.8m、南端部でT.P+64.2mを測った。層序は北半部で6層、南半部では9層に分層できる。

第1層 耕作土である。10YR3/3暗褐色土で、第5地区では南半部に存在する里道および水路部分をのぞく地域に堆積がみられる。厚みは20cm～30cmを測った。

第2層 床土である。7.5YR5/8明褐色粘質土で、第5地区では部分的に堆積が

みられるのみである。厚みは3 cm～5 cmを測った。

第3層 5 Y R 6/1褐色混じり灰色砂質土で、第5地区の南端部付近と中央部付近の2ヶ所に約10cm～20cmの厚みを持って堆積がみられる。遺物は出土しなかった。

第4層 5 Y 6/3オリーブ黄色+10 Y R 6/8明黄褐色砂質シルトで、里道部分の一部をのぞいてほぼ全域に堆積がみられる。厚みは20cm～30cmを測った。16世紀から17世紀頃の堆積層と考えられる。

第5層 2.5 Y 5/2明灰黄色砂質シルトで、第5地区の全域に堆積がみられる。厚みは10cm～20cmを測った。14世紀から15世紀頃の堆積層と考えられる。

第6層 N3/暗灰色粘質土である。第5地区のほぼ全域に堆積がみられる。5 cm～20cmの厚みを持つ。13世紀頃の堆積層と考えられる。

第7層 10 Y R 6/8明黄褐色土で、第5地区では南端部付近に堆積がみられる。厚みは約5 cmを測った。

第8層 N4/暗灰色砂質土で、第5地区の南端部のごく一部に堆積がみられる。

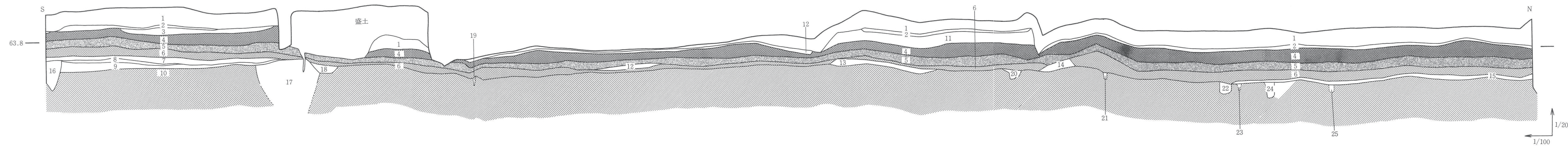
第9層 10 Y R 5/4にぶい黄褐色砂質シルトで、第5地区の南端部付近に堆積がみられる。厚みは約5 cm～20cmを測った

第10層 地山である。10 Y R 5/6黄褐色粘質土で、第5地区では南半部で礫を多く含んでいる。地山直上が遺構面となっている。遺構面は南から北へゆるく傾斜しており、標高は北端部でT.P+63m、中央部でT.P+63.2m、南端部でT.P+63.4mを測った。古墳時代前期、奈良時代の遺構が検出された。

第6地区

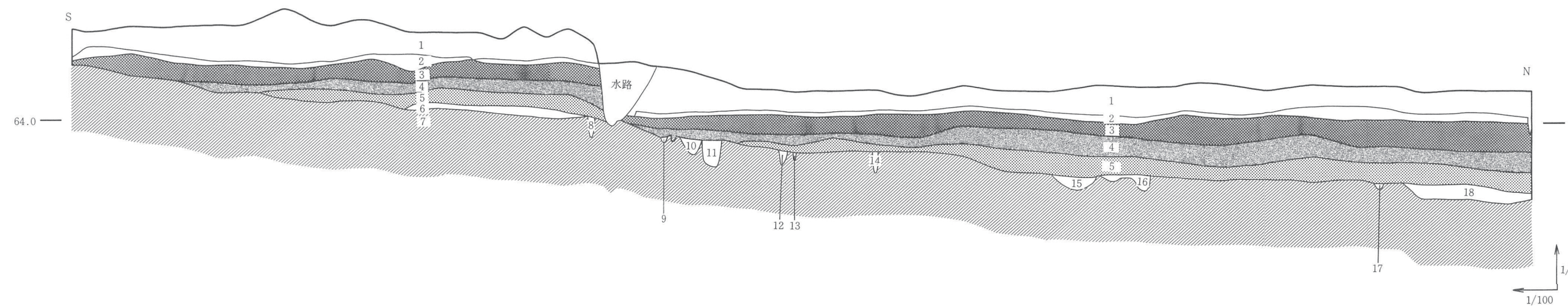
第6地区は第5地区と里道をはさんで接する地区である。中央やや南側に約50cmの段差が生じている。地表高は南側の高い地域がT.P+64.8m、北側ではT.P+64.3mを測った。調査以前はみかん畑となっていた。層序は北側、南側ともに5層に分層できるが、連続した状況を呈しているのは地山のみであり、他の層は段の地点で完全にずれた状態になっている。

第1層 耕作土である。10 Y R 3/3暗褐色土で、第6地区の全域に堆積がみられ



第5地区

- | | | | |
|-------------------------------------|--------------------------|---------------------------|-------------------|
| 1. 暗褐色土 10Y R3/3 (耕土) | 7. 明黄褐色土 10Y R6/8 | 13. 暗灰色粘質土 (レキ混じり) N3/ | 19. 暗褐色土 5 Y R4/1 |
| 2. 明褐色粘質土 7.5Y R5/8 (床土) | 8. 暗灰色砂質土 N4/ | 14. 暗褐色土 5 Y R4/2 | 20. 黒褐色土 5 Y R3/1 |
| 3. 褐色混じり灰色砂質土 5 Y 6/1 | 9. にぶい黄褐色砂質シルト 10Y R5/4 | 15. 黄褐色土 (レキ混じり) 10Y R5/8 | 21. 黒褐色土 5 Y R3/1 |
| 4. オリーブ黄色 5 Y 6/3+明黄褐色砂質シルト10Y R6/8 | 10. 黄褐色粘質土 10Y R5/6 (地山) | 16. 明黄褐色砂質土 10Y R6/8 | 22. 暗褐色土 5 Y R4/1 |
| 5. 明灰黄色砂質シルト 2.5Y 5/2 | 11. 褐色混じり灰色土 5 Y 6/1 | 17. 灰色荒砂 N6/ | 23. 暗褐色土 5 Y R4/1 |
| 6. 暗灰色粘質土 N3/ | 12. 明黄褐色粘質土 10Y R6/6 | 18. 暗褐色土 5 Y R4/1 | 24. 暗褐色土 5 Y R4/1 |
| | | | 25. 暗褐色土 5 Y R4/1 |



第6地区

- | | | |
|-------------------------------------|-------------------------------|--------------------------|
| 1. 暗褐色土 10Y R3/3 (耕土) | 7. 黄褐色粘質土 10Y R5/6 (地山) | 13. 黄褐色混じり黒褐色土 7.5Y R3/2 |
| 2. 明褐色粘質土 7.5Y R5/8 (床土) | 8. 暗褐色土 7.5Y R3/3 | 14. 黒褐色土 7.5Y R3/2 |
| 3. オリーブ黄色 5 Y 6/3+明黄褐色砂質シルト10Y R6/8 | 9. 暗黄褐色土 10Y R4/4 | 15. 灰色土 5 Y 6/1 |
| 4. 明灰黄色砂質シルト 2.5Y 5/2 | 10. 灰色混じり黄褐色土 (砂混じり) 10Y R5/6 | 16. 灰色土 5 Y 6/1 |
| 5. 暗灰色粘質土 N3/ | 11. 暗褐色土 7.5Y R3/3 | 17. 黒褐色土 7.5Y R3/2 |
| 6. 明褐色土 7.5Y R5/8 | 12. 黄褐色混じり黒褐色土 7.5Y R3/2 | 18. 暗灰色砂質土 N3/ |

第7図 第5地区・第6地区土層断面図